

2-17 考古遺跡における液状化痕データの収集並びにデータベース化

東京大学地震研究所

強震動の痕跡である液状化痕の資料を、首都圏の考古遺跡の発掘資料から識別・収集し、データベースを作成する。過去地震の実体解明のための基礎資料とする。

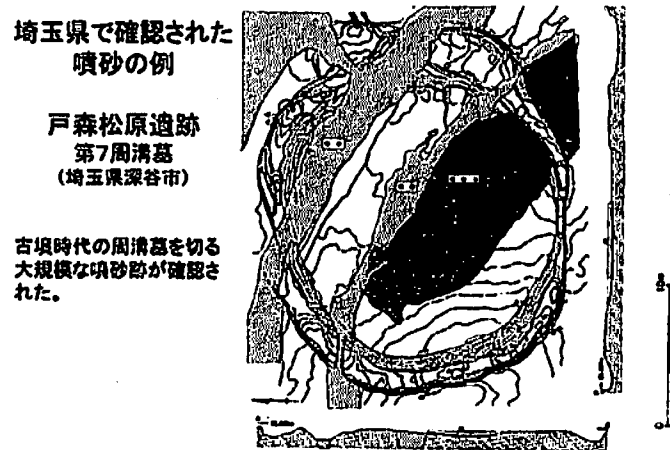


図 1. 埼玉県深谷市の液状化痕の例 (埋文関係救済連絡会議, 1996)

1. 平成 21 年度の計画

埋文関係救済連絡会議がとりまとめを行って以降、液状化の痕跡についての総括的にとりまとめは行われていない。1996 年以降、外環自動車道の建設などがあり、とくに関東北部で考古発掘事例が多い。埼玉県では 1996 年以降、約 600 件の発掘報告がある。また、埼玉県・群馬県では既に報告されている事例が多い。このため、平成 21 年度は、埼玉県・群馬県・栃木県での発掘報告書を精査し、液状化の痕跡についての基礎資料を収集する。基本的には GIS (地理情報システム) を用いてデータベース化し、他機関でも容易に使用しやすいものとする。

1996 年の報告書では、群馬県～埼玉県の大部分の遺跡で 818 年 (弘仁 9) 関東諸国 $M=7.5$ 以上 (最新版「日本地震被害総覧」) と推定される液状化が確認されており、その強震動範囲を把握できる可能性もある。

3. 平成 21 年度～23 年度の実施計画

平成 22 年度: 東京都・千葉県・茨城県の考古発掘資料を精査し関係資料を収集。

平成 23 年度: 神奈川県・山梨県の考古発掘資料を精査し関係資料を収集。GIS 化と成果のとりまとめ。

成果のイメージ

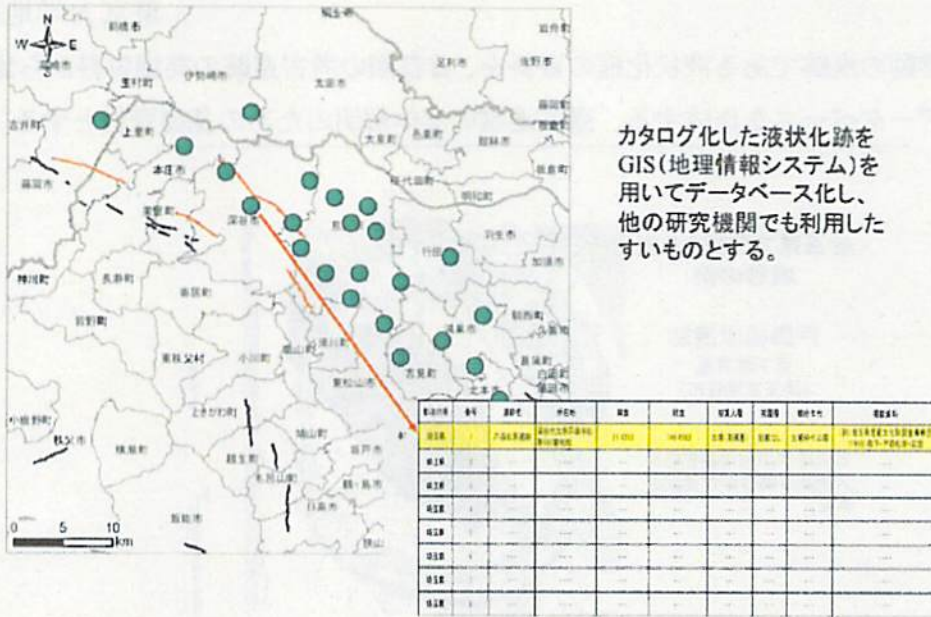


図 2. 成果のイメージ

項目	対象とする都県	実施年度		
		H21	H22	H23
遺跡発掘報告書の確認作業と液状化一覧表の作成	茨城県			
	栃木県			
	群馬県			
	埼玉県			
	東京都			
	千葉県			
	神奈川県			
	山梨県			
GIS化・結果のとりまとめ	—			

図 3. 作業工程